

再生可能エネルギーの導入拡大により、エネルギーコストは今後上昇が避けられなくなる見通しだ。連載の番外編として電気の使用効率に優れるなど省エネルギーにつながる生産設備を紹介する。

◇ 中小の印刷会社が導入できる装置だ。富士電波工機（埼玉県鶴ヶ島市、柳橋健社長、049・286・3211）の吉田睦取締役は、印刷工程に使う乾燥装置の顧客拡大に期待を込める。富士電波工機は高周波

富士電波工機

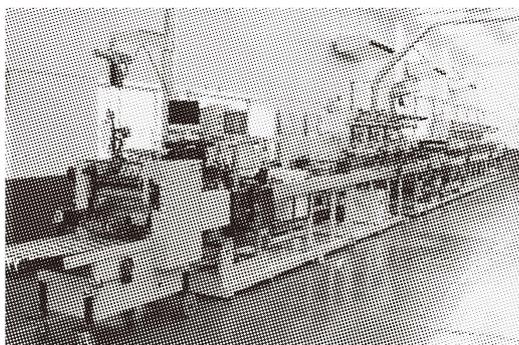
高周波誘電加熱方式の乾燥装置

番外編



9

誘電加熱方式を用いた乾燥装置を製造し、印刷機



加熱個所を選択、空調費抑制

機械メーカーへのOEM（相手先ブランド）供給が約8割を占める。例えば、宅配便の伝票といった4、5枚つづりの用紙をより合わせるために使用

うのりなどを同装置で乾燥する。「のりに含まれる水分や印字したインクだけを選択的に乾かせる」（吉田取締役）ため、効率に優れるほか印刷物の乾燥に必要

する方法もある。ただ印刷物自体の加熱は印刷施設内の室温を上げてしまふ。このため、空調設備のコストが余計にかかる要因になることもあると

な設備投資の二一スを取り込む考えだ。これまで培った技術やノウハウを成長分野に展開する取り組みを進めている。太陽電池や有機エレクトロ・ルミネッセンス（EL）などの基板に銀や銅などの薄膜を塗布・焼成する「プリンタブルエレクトロニクス」の研究を産業技術総合研究所や静岡大学などと共同で推進。先端的な技術開発を今後の事業拡大につなげる。

印刷物が加熱により収縮して印刷がずれてしまうことな

いう。吉田取締役は「高周波誘電乾燥装置を使うことで、空調コストの抑制につながる」と導入効果を説明する。印刷施設の省エネルギー化に向けて、同装置の活用が有効な手だてになる。

高周波誘電乾燥装置を導入することで、赤外線や熱風による乾燥よりも印刷施設

の空調コストを抑えられる。高周波誘電加熱方式で選択的に乾燥できる効率性は、2次的な効果も引き出す。印刷物の乾燥工程には赤外線を当てたり、熱風を吹き付けたり

（孝志勇輔）